北っ子 敷島北小学校だより

令和５年７月２１日　　文責　学校長　増坪広夫

夏休みには様々な体験を

４月７日に始まった１学期でしたが，本日終業式を迎えることができました。保護者の皆様や地域の皆様の温かい見守りと御支援のおかげで，敷島北小の子どもたちが元気に充実した日々を過ごすことができました。心より感謝いたします。

さて，１学期は教室での学習に加え，修学旅行や自然教室，遠足を含む校外活動なども実施してきました。子どもたちはこれらの学習を通して，友だちとの協力や学び合いの大切さ，社会でのマナーなど多くのことを学ぶことができました。アフターコロナでの活動ではありましたが，感染症対策など御家庭での御協力に重ねて感謝申し上げます。

いよいよ７月２２日（土）から３８日間の夏休みに入ります。家族での団らんやお手伝い，地域行事への参加，絵画や工作等の創作活動，課題を決めての自由研究や読書活動，計画的な体力づくりなど様々な体験をしてほしいと願っています。このような体験を通して子どもたちは，考える力やねばり強く取り組む力など様々な力を身に付けていきます。子どもたちにとって有意義な夏休みになりますよう重ねて御支援をお願いいたします。

「へこたれない心」を育てる

国立青少年教育振興機構が行った調査研究では，**「子どものころ，家族の愛情や絆を基盤に遊びに熱中するなど様々な体験をした人ほど自己肯定感が強く，へこたれない大人になる」**との報告がありました。その中から夏休みに関係するものをいくつか引用すると，次のような人が「社会を生き抜く資質や能力が高い」という結果になったそうです。

①　お手伝いや家族行事といった体験が多く，家族との愛情や絆を強く感じていた人

②　外遊びを多くし，遊びに熱中していた人

③　親や先生，近所の人から「ほめられた経験」が多かった人

特に③については，**「厳しく叱られた経験」**も多ければ，より「へこたれない」傾向にあるそうです。いずれにしても，大人として子どもたちときちんと向き合い関わることが重要な気がします。

授業参観への御参加，ありがとうございました

授業参観への御参加ありがとうございました。教室での子供たちの様子はいかがだったでしょうか。

コロナによる制約が緩和され，学校にいままでの日常が少しずつ戻ってきていることを感じていただければと思います。授業参観は，当然自分のお子さんに目が向くはずですが，お子さんがどんな学級の中で過ごしているのかも見ていただけたことかと思います。お子さんが普段どのように「集団の中で学んでいるか」に興味を持っていただく機会になったとすれば幸いです。

思いあがり×思いちがい

今月，検診の結果から予防治療で入院しなければならない期間がありました。入院中は時間が十分あったので，昔読んだ教育書を何気なく読み返していたら，次のような一節がありました。（一部抜粋）

教室で落ちつかない子がいる。
あちらこちらに，ちょっかいを出す子がいる。
「学習以前の問題だ」「学習態度ができてない」と多くの教師は考える。
そこで厳しくしつけをする。おこることもあるし，怒鳴ることもある。
しかし「学習以前の問題だ」「学習態度ができてない」と考えるのは，教師の思いあがりである。
思い上がりで悪ければ，錯覚である。
「教室で落ちつかない子」がいるのは，ほとんどの場合，教師の技量の未熟さのためである。
教師の技量の未熟さ・・・・それは，「授業がつまらない」「授業が知性的でない」ということである。
子供たちが知的興奮をおぼえるような授業をすることができれば教室は落ち着きを見せるようになる。

担任時代，教育書に書かれていたような教師としての未熟さに「目をそらしてないか」「思いあがっていないか」「そもそも，そうした感性を持っているのだろうか」と考えたことがあります。その姿勢は今も続いていますが「子供は教師を選ぶことができない」という事実を重く受け止められる教師でありたいと思っています。

ただ，いつもすべてがうまくいくとは限りません。みんなで考えたり，計画したり，やってみたりすると，困ったりうまくいかなかったりすることもあります。でもこうした「つまずき」があるからこそ集団で学ぶという学校教育の価値があるような気がします。学級とは，皆それぞれにそれぞれの良さを持った一人ひとりが集まった集団なのですから。

1 学期の活動の様子

３年遠足（黒富士農場）

４年遠足（平瀬浄水所）

５年農業体験（田植え）

芸術鑑賞（もったいないミュージカル）